



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

未来へつなぐ



過去に学ぶ

現在を読み解く

上智大学 文学部
Faculty of Humanities

—各学科の学生の声—

01 哲学科 (3年)

山口 璃沙



ふと思うことが、哲学対話へ。
自主研究会で積極的に
考える力が生まれる。

1.学科を選んだきっかけ :高校2年の夏に、上智大学のオープンキャンパスで、『ソクラテスの弁明』に関する荻野弘之先生の体験授業を受けました。3年のときには高校でも哲学の特別授業を受ける機会があり、強い関心を持つようになりました。

2.うちの学科のここがスゴイ！ :哲学科では、学生たちが常日頃から自主的に研究会を開いています。私自身も現在、メンバー20名ほどの哲学対話研究会と、新プラトン研究会に入っています。さらに、哲学科には学部生専用の研究室があって、先輩と後輩が哲学的な対話、議論をしながら親しく交流しています。このように、横のつながりも縦のつながりもとても強い点が魅力です。

3.学びを通して自分の中に起った変化 :青春ってなんだろう？等の、ふと思ったことが哲学対話につながるので、物事について積極的に考えようになりました。相手の話を聞いて、それを自己解釈した上で自分の言葉にして相手に返す、といったコミュニケーション能力もつきました。

4.学びを今後の人生でどう活かす？ :1年生のときから大学院入試を受けることは決めていました。来年の教育実習を通じ、自分に合っていれば、大学院卒業後、教員の道へ進みたいと考えています。

02 史学科 (3年)

中田 陽奈子



過去も未来も、客観的にみつめる。
資料で読み解く歴史の答えは、無限大。

1.学科を選んだきっかけ :高校の世界史の授業が面白くて。内容はもちろんですが、先生がとても楽しそうにお話しなさいて……私も、自分が楽しいと思えることで4年間を使いたい！と思いました。

2.うちの学科のここがスゴイ！ :私が受講している西洋史のゼミでは、フランス語の文献を読み、さらに、その内容について調べたことを発表しています。様々な言語に出会えるのもこの学科の魅力で、ほとんどの史学科生が日本語以外の言語に触っています。日本史のゼミでも、近代以前なら漢文の史料、近現代なら英語の史料を扱いますから。

3.学びを通して自分の中に起った変化 :歴史上のことでの絶対こうだと言い切ることはなく、と大学に入ってはじめて認識しました。そのとき、その場に居なかった私たちが過去を振り返る。そこに居合わせた人たちですら、立場が違えば、同じことを違うふうに受け取って、違う書き方をする。「色々な立場から書かれた史料を集めること」は、これくらいのことは言えそうだ、というように考えなさい」と先生はいつもおっしゃいます。人間の物の見方にはバイアスがかかっていると意識するだけで違う。そのことを学んでから、客観的な視点を大事にするようになりました。

4.学びを今後の人生でどう活かす？ :今は大学院への進学を考えています。教職課程をとっているので、これから教育実習も体験します。史学科で身に付けた客観的な視座を、様々ななかたちで活かしていきたいです。

03 国文学科 (3年)

高峰 夏子



国文学、国語学、漢文学。
総合的カリキュラムで、言葉を磨く。

1.学科を選んだきっかけ :中学の頃から国語の授業が好きでした。小説の中の人間の心の描き方や、日本語の美しさに惹かれて、高校2年の終わり頃から、大学でも学びたいと思いました。

2.うちの学科のここがスゴイ！ :国文学、国語学、漢文学の3分野を総合的に学べるカリキュラムが魅力です。1年は基礎科目、2年からは演習などの学生が主体的に取り組む授業があります。自分の専攻したい分野だけでなく、例えば、「古典文学基礎」で学んだくずし字が、明治時代の新聞を読む「国語学演習」で生きるというように、他の分野も総合的に履修するカリキュラムなので、必然的に広く専門的な知識を得ながら研究が行えます。

3.学びを通して自分の中に起った変化 :文学を読むときだけでなく、日々の生活やコミュニケーションの中でも、一語一語に自分がどういう意味を込めたのか、相手がどういう感情で喋っているのかを考えながら、言葉を大切に味わう姿勢が身についたと思います。

4.学びを今後の人生でどう活かす？ :様々な価値観にアンテナを張って、人の感情の機微や感受性を大事にしたいです。将来は、出版、広告業界などで、人の心を動かす仕事につければいいなと思っています。

01 | Risa Yamaguchi



02 | Hinako Nakada



03 | Natsuko Takamine



哲学科

史学科

国文学科

04 英文学科 (3年)

大串 和佳奈



知識を詰め込んでいました。ちょっとした疑問も、受験に関係がなければそのままにするしかありませんでした。大学で自由に学べるようになってからは、これを知りたい！と思えば、リファレンスはいっぱいあるし、先生に質問すれば色々なことを教えていただけるので、興味をどこまでも掘り下げていくようになりました。

4.学びを今後の人生の中でどう活かす？：教科書や参考書の知識の詰め込みではなく、生徒たちのモチベーションを上げる英語教育ができる先生になりたいです。言語学と英文学の両方の知識を活かして、なぜ文法を勉強するの？なぜ語彙をこんなに覚えないといけないの？といった素朴な疑問を解決しながら、英語への様々なアプローチの仕方を教えていただければと思います。

05 ドイツ文学科 (3年)

岡村 宏美



本格的なドイツ語を
1年次から学べる楽しさ。
解釈をさらに深める「文献演習」。

1.学科を選んだきっかけ：大学に入るのをきっかけに、今までにまったく触れたことのない新しい言語を、と思って。『グリム童話集』の「灰かぶり姫（シンデレラ）」のお話が好きだったので、ドイツ文学科に決めました。

2.うちの学科のここがスゴイ！：1年次から、ネイティブの発音に触れながら本格的にドイツ語を学べます。2年次からは、1年次で学んだ文法をふまえて少しづつ、ドイツ語でドイツ文学を読めるようになります。3年次からの「文献演習」の授業では、学科の友人たちと意見交換をしながら、解釈をさらに深まっていきます！

3.学びを通して自分の中に起こった変化：今までには文学作品をずっと受け身で読んでいました。解釈するときも、まるで現代文の問題に向き合ふみたいで。大学に入って色々な作品を読んでいく中で、登場人物の心情を機械的にとらえるのではなく、作者はどういう気持ちで書いたのだろう、作品が書かれたのはどんな時代だったんだろう、というように、作品の背景を考えるのが好きになりました。

4.学びを今後の人生の中でどう活かす？：身につけた語学を活かして、コンサルティング関連の仕事をしたいなと思っています。相手の状況を理解した上でお互いの利益を最大限に引き上げる、そういういった、人と接する事がしたいです。

受験英語から、使える英語へ。自由な英語教育ができる人になりたい。

1.学科を選んだきっかけ：高校に入って英語が一気に難しくなったときに、こういう風に教えてもらえたならもっと効率よく学習できるのになあと思ったことから、英語教育に興味を持ちはじめました。

2.うちの学科のここがスゴイ！：英文学科の授業は、10から20人程度の少人数で行われています。先生はいつも丁寧なフィードバックをくださるし、学生の質問や意見を授業に取り入れてもくださいます。受験で培った英語の知識が無駄にならず、新たな学びの土台になるとこも魅力です。

3.学びを通して自分の中に起こった変化：高校時代は、受験という締め切りに間に合わせるために、ひたすら知識を詰め込んでいました。ちょっとした疑問も、受験に関係がなければそのままにするしかありませんでした。大学で自由に学べるようになってからは、これを知りたい！と思えば、リファレンスはいっぱいあるし、先生に質問すれば色々なことを教えていただけるので、興味をどこまでも掘り下げていくようになりました。

4.学びを今後の人生の中でどう活かす？：教科書や参考書の知識の詰め込みではなく、生徒たちのモチベーションを上げる英語教育ができる先生になりたいです。言語学と英文学の両方の知識を活かして、なぜ文法を勉強するの？なぜ語彙をこんなに覚えないといけないの？といった素朴な疑問を解決しながら、英語への様々なアプローチの仕方を教えていただければと思います。

フランスと日本の感性の違いを実感。
多方面からのアプローチを学ぶ！

06 フランス文学科 (3年)

米島 瑛一



1.学科を選んだきっかけ：もともとフランスにとても興味があったんです。フランスのサッカーやファッショングが好き、というのもきっかけになりました。

2.うちの学科のここがスゴイ！：フランス文学科、と聞いてイメージするような、上品で落ち着いた雰囲気の中で学べます。学生たちは疑問があるとすぐに挙手するので活気もあります。温和さと積極性のバランスがいいなって。グループワークが多くて、ひとつのことに皆で取り組めるのも楽しいです。

3.学びを通して自分の中に起こった変化：日本人とフランス人では感性が全く違います。同じ内容の文章でも、フランス人だと少し皮肉っぽい書き方をしたり……時代ごとの違いや国民性といった背景的なものも、文章から読み取れます。こうした分析をしていく中で、ひとつのことがらに対して色々な見方ができるようになりました。

4.学びを今後の人生の中でどう活かす？：何か問題が起きたときに、正面から取り組むのも大事ですが、敢えて正面から外れて、多方面からのアプローチをしながら解決することもできたらいいなと思います。

07 新聞学科 (3年)

中阪 利予



いかに情報を伝えるか。
机で理論を学び、現場でニュースを実践。

1.学科を選んだきっかけ：中学2年のときの新聞社での職場体験、さらに、高校のときに留学したニュージーランドでのある体験がきっかけです。現地ではなぜか捕鯨問題を持ち出され、日本人はクジラの肉を食べるんでしょう？と聞かれたり、嫌な目で見られたりしました。実は、私が留学する少し前に、アメリカ人監督のアンチ捕鯨の映画が上映されていたんです。この体験を通して「どう伝えるか」が大切だと認識し、媒体について学びたいと思うようになりました。

2.うちの学科のここがスゴイ！：コミュニケーションの歴史や放送のシステムなどを学びつつ、学内にあるテレビセンターでは実習の授業を受けることができます。また、実際に現場で働いている新聞社の方やテレビ局のディレクターの方が講師としていらっしゃる輪講の授業も多く、多角的に学べるところが魅力です。

3.学びを通して自分の中に起こった変化：新聞学科では多くのレポートが課されますが、鍛えられたおかげで、書くスピードが速くなりました。はじめはきつかった2000字の課題も淡々とこなせるようになりました。

4.学びを今後の人生の中でどう活かす？：自分がハブになって、人と社会を、そして人と人とをつなぎたいです。今年8月からの交換留学の場も活用しながら、様々な人々の考え方やそれぞれの地域に存在する文化背景を知り、自分が伝えたいことを伝えられるようになれたらと思っています。

04 | Wakana Ogushi



05 | Hiromi Okamura



06 | Eiichi Yoneshima



07 | Ryō Nakasaka



英文学科

ドイツ文学科

フランス文学科

新聞学科

人文学的視点を核にしながら
“創造的な学びの機会”を提供

「横断型人文学プログラム」

学科の専門の枠を超えて、今まで考えてもみなかったつながりを探求する、そんな創造的な学びの機会を提供するプログラムです。「身体・スポーツ文化論コース」「芸術文化論コース」「ジャパノロジー・コース」の3コースがあり、それぞれに独自の科目が用意されています。プログラムを受講する学生は、興味をもった分野を選択し、より積極的に知識を深めてゆくことができます。

プロジェクト・ゼミ

学生の興味にあわせて作りあげるクラス

研究テーマを定め、学科の壁を越えた複数の学生が協力してリサーチ、分析、必要に応じてフィールドワークも行うなどしてプレゼンテーションへとつなげていきます。
研究成果の発表会も予定しています。

身体・スポーツ文化論コース

「からだ」から自分を、そして世界を
捉え直してみよう

文学部にあって唯一、テクストを持たない「身体」や身体表現としての「スポーツ」を、身体文化というコンテキストから新たに捉え直し、探求するコースです。従来の身心二元論的な物としての「身体Body」ではなく、身体・心・スピリチュアリティを含む「からだSoma」の視点に立つことで、文学や哲学、歴史、メディアのなかに新たに立ち現れる、多様な感覚世界として身体の在り方や、記憶や経験をも含む身体イメージ、そしてそのまなざしの中心に立つ自分自身の「身体(存在)」に出会ってください。

2019年度身体・スポーツ文化論コース代表
保健体育研究室 吉田美和子准教授

芸術文化論コース

「創造産業Creative Industry」の
未来の担い手になろう

文学部では、通常、文字テクストを読んで議論します。その学びに血肉を与えるのが芸術文化論コースの授業であると言えるでしょう。このコースでは、学科で身につけた〈言葉を分析する力〉をさらに豊かな方向へ発展させるべく、舞台・造型・音楽・映像関係の芸術といった異なるメディアを扱う魅力的な科目を開講します。現在、「創造産業Creative Industry」と呼ばれる分野がビジネスの世界で新たな注目を集めていますが、文学部の狙いは、芸術を多角的に見てその鑑賞や評価をするだけでなく、その創造の一過程に携わったり、海外で芸術作品の買付をする等、創造産業のパイオニアとして活躍する学生を世界に送り出すことです。

2019年度芸術文化論コース代表
英文学科 松本朗教授

ジャパノロジー・コース

ステレオタイプに惑わされず、
多様な〈日本〉をみつけよう

現在、テレビや雑誌には、日本を手放しに讃める言説が溢れています。「歴史や伝統を大切にしつつ、新しい価値を生みだしていく国」……、でも本当にそうなのでしょうか。外国人観光客が大挙して訪れる京都では、いま、文化財級の町屋が急速に失われています。オリンピックを控えた東京もまた、しかし。「和を以て貴しとなす」という憲法十七条の文言も、宗教的共生を体現するという神仏習合の形式も、実は中国から将来されたものです。ならば日本とは、日本文化とは何なのでしょうか。内からの視線と外からの視線を交差させ、まったく新しい〈日本〉の姿を再発見してみませんか。

2019年度ジャパノロジー・コース代表
史学科 北條勝貴教授

個別選択科目

確かな視点を養うとともに人文学の広さと深さを知る

テクストを読む

「読み方」を学ぶクラス。テクストとは、文字だけでなく史跡や遺物などの物・絵画・映像・身体など「読んで解釈できるもの」すべてが対象です。

文化交渉入門

「外来文化の受容」や自國文化を海外に発信する時に生じる「文化変容」についての理解を深めるクラス。文学・美術・音楽・演劇・スポーツなど、幅広い事例を考察します。

哲
學
科

史
學
科

國
文學
科

英
文學
科

德
國
文學
科

法
國
文學
科

新
聞
學
科

保
健
體
育
研
究
室

